

算数

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア（思考力、判断力、表現力等）	イ（知識及び技能）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量や測定などについての基礎的・基本的な概念や性質などについて理解すること。</li> </ul>

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章問題を読んで、正しい式を立てることに課題がある。ア</li> <li>・ 数の構成の理解に課題がある。イ</li> <li>・ 長さやかさの単位換算や単位を適切に選択して測定することに課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章問題では、類似問題に取り組む機会を設ける。</li> <li>・ 具体物を操作しながら数に関わりをもつ機会を設ける。</li> <li>・ 「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を朝学習（ぐんぐんタイム）時に活用し、基礎・基本の習熟を図る。</li> <li>・ 具体的な場面で直接比較する機会を設ける。</li> <li>・ 測定するものの特徴に着目させ、対象に応じた単位を選択する場面を問題の解決過程に位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごと</li> <li>・ 単元ごと</li> <li>・ 通年</li> <li>・ 単元ごと</li> <li>・ 単元ごと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類似問題にくり返し取り組みたり、図を描いたりして、少しずつ立式ができるようになってきた。</li> <li>・ 具体物の操作はくり返し行ってきたが、ドリル活用の時間を十分に確保することができず、数の構成の理解には課題が残る。</li> <li>・ 単位を選択する場面において、イメージしやすいものを取り入れた結果、少しずつ適切な選択ができるようになってきた。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決する方法を表現することに課題がある。ア</li> <li>・ 基礎的・基本的な乗法・除法の定着に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現力を磨くためのペア学習やグループ学習を設定する。</li> <li>・ 習熟度別学習を実施し、コースによってつまずきに合わせて、立ち戻った学習を行ったり、発展的な内容を扱ったりする。</li> <li>・ 「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を朝学習（ぐん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごと</li> <li>・ 通年</li> <li>・ 通年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペア学習やグループ学習を取り入れることで、考えを表現することへの意欲が高まった。</li> <li>・ 朝学習や授業の理解度を確かめるために活用したことによって、基礎的・基</li> </ul>

		ぐんタイム) 時に活用し、基礎・基本の習熟を図る。		本的な問題の正答率が上がった。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の既習事項を総合的に活用し、問題を解決することに課題がある。ア</li> <li>文章を読み取り、数量の関係を捉えて、立式することに課題がある。ア</li> <li>基礎的・基本的な小数と分数の乗法・除法の定着に課題がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時に、問題につながるの既習事項について振り返る。</li> <li>友達と意見を交流、議論する機会を設ける。</li> <li>類似問題に取り組む機会を設ける。</li> <li>文章から、場面を図に表す機会を設ける。</li> <li>習熟度別学習を実施し、コースによってつまずきに合わせて立ち戻った学習を行ったり、発展的な内容を扱ったりする。</li> <li>「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、基礎・基本の習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごと</li> <li>単元ごと</li> <li>単元ごと</li> <li>通年</li> <li>通年</li> <li>通年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時に既習事項の確認をすることができた。</li> <li>ペアで自分の考えを伝え合うことができた。</li> <li>図に表す機会を設けたことにより、問題場面の数量の関係を読み取ることができた。しかし、表すことが難しい児童もいて差が見られた。</li> <li>朝学習や授業の理解度を確かめるために活用したことによって、基礎的・本的な問題の正答率が上がった。</li> </ul>

**■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について**

低学年： まとめた考えを、ロイロノートを用いて共有する。  
 タブレット端末を活用し、図を操作し考えを整理する。

中学年： まとめた考えを、ロイロノートを用いて共有し、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を見付ける。  
 アプリ版東京ベーシック・ドリル、ミライシードで既習の問題を反復練習する。

高学年： ロイロノートを用いて考えをまとめ、説明を行う。

**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について**

全学年： 単元の開始時に、つながりのある既習事項を振り返ること  
 で、新たな問題への解決の見通しをもてるようにする。  
 単元末に、学んだことを振り返る時間を設定する。

アプリ版東京ベーシック・ドリル、ミライシードで既習の問題を  
反復練習する。